

あさみどりの会 令和5(2023)年度事業報告

3年を超えるコロナ禍を経て漸く5月に感染症法上の位置づけが変更され、法人及び各事業所の事業活動を少しずつ回復していくことができた1年であった。法人事業としては「第16回フォーラムあさみどり」「第60回心身障がい問題を考える集い」「第79回ボランティアスクール」など、法人の基盤に位置付けられる事業活動を、リモートと集合とのハイブリッド開催を含めた対面での開催ができたことは喜ばしいことであった。事業全体がコロナ以前に回復するまでにはまだまだ時間を要すると思われるが、令和6年度も引き続き感染対策に留意しながら各事業所の事業共々法人の活動を展開していきたいと思う。

ここ数年は、中途退職者が相次ぎ、コロナ禍の影響もあってか補充がままならない状況が続く中、ボランティアの受け入れも停滞していたことから職員採用に大変苦慮してきた。そうした状況下、有料就職サイトとの契約も併せて職員確保に努めてきたが、幸い来年度は補充が叶うこととなり、今後職員体制のゆとりにつなげていくことを願っている。職員の新規採用についてはこれからも重要な課題と捉え、本来あさみどりが大切にしてきた「出会い・つながり」を軸とした人的交流や育成事業を主体としつつ、適宜就職サイトの活用も含めて対応していくことが必要と感じている。

10月に、べにしだの家のグループホームにおいて40歳の男性利用者が入浴支援中に浴槽内で溺水し、救急搬送されたものの亡くなられるという決してあってはならない事故が発生してしまった。法人として提供しているサービス利用時の事故であり、只々申し訳ない思いでいっぱいである。ご本人、ご遺族には改めて心よりの謝罪を申し上げると同時に、べにしだの家だけの問題と留めず、法人全体で継続的に事故防止対策に取り組み、伝承・啓発していくことに努めていかねばならないと感じている。

事業収支については、法人全体として大きな齟齬なく経過した1年であった。ただコロナ禍で施設整備等の事業があまり動かなかつたこともあり、社会福祉充実残額が発生する状況が今後続くことが考えられる。そうしたことも踏まえた上で、中長期の事業計画の策定を図っていききたいと思う。

元日に発生した能登半島地震に際し、あさみどりグループとして迅速な支援活動を行うべく、あさみどりの風熊谷理事長の繋がりから災害時等の支援活動にあたるNGO団体や現地の社会福祉法人等とも連携して、当地出身の田中所長とあさみどりの風有期職員1名を派遣した。田中所長から現地の状況が愛知県福祉協会に伝えられたことにより、支援物資の迅速な調達や1月末には被災利用者の愛知県への二次避難受け入れに繋がっている。南海トラフ地震の発生が懸念されている昨今、BCPの整備と周知に努め防災意識の更なる向上に取り組んでいく必要を感じている。

1 組織強化

(1) 理事会

- ①開催日時 令和5(2023)年5月23日(火) 午後6時00分から8時00分まで
開催場所 さわらび園3階カウンセリングルーム
出席理事 後藤秀爾 島田修三 島崎徹也 山本智恵 追分伸夫
欠席理事 椿 泰廣
出席監事 菅沢 豊 渡邊 勝 出席施設長 田中雅樹 鷺見まち子
オブザーバー 村上正城顧問税理士
決議事項 第1号議案 令和4(2022)年度 事業報告について
第2号議案 令和4(2022)年度 決算について
第3号議案 諸規定の新設及び改定について
第4号議案 理事、監事の候補案について
第5号議案 評議員選任解任委員の選任について
第6号議案 評議員会の開催及び提案事項について
報告事項 報告第1号 べにしだの家第3作業室感染防止対策整備工事について
報告第2号 その他
- ②開催日時 令和5(2023)年6月9日(金) 午後6時00分から6時30分まで
開催場所 さわらび園3階カウンセリングルーム
出席理事 後藤秀爾 島田修三 島崎徹也 山本智恵 追分伸夫 菅沢 豊
出席監事 北村榮章 欠席監事 渡邊 勝
決議事項 第1号議案 理事長の選定について
第2号議案 業務執行理事(専務理事)の選定について

- 第3号議案 評議員選任・解任委員の選任について
- 報告事項 報告第1号 法人役職員配置について
- ③開催日時 令和5(2023)年11月21日(火) 午後6時00分から7時15分まで
- 開催場所 さわらび園3階カウンセリングルーム
- 出席理事 後藤秀爾 島崎徹也 山本智恵 追分伸夫 菅沢 豊
- 出席監事 渡邊 勝 北村榮章 欠席理事 島田修三
- 出席施設長 田中雅樹 鷺見まち子 秋吉美果(べにしだの家副施設長)
- 決議事項 第1号議案 令和5年度予算一部補正について
第2号議案 諸規程の改定について
第3号議案 評議員会の開催について
- 報告事項 報告第1号 べにしだの家における溺水事故について
報告第2号 来年度体制について
報告第3号 べにしだの家施設整備事業(換気設備)について
報告第4号 その他
- ④開催日時 令和6(2024)年3月19日(火) 午後6時00分から8時00分まで
- 開催場所 さわらび園3階カウンセリングルーム
- 出席理事 後藤秀爾 菅沢 豊 島田修三 島崎徹也 山本智恵 追分伸夫
- 出席監事 渡邊 勝 北村榮章 出席施設長 田中雅樹 鷺見まち子
- オブザーバー 村上正城顧問税理士
- 決議事項 第1号議案 令和5(2023)年度 予算の一部補正について
第2号議案 令和6(2024)年度 事業計画について
第3号議案 令和6(2024)年度 予算について
第4号議案 諸規程の改正について
第5号議案 令和6年度職員体制と施設長の人事について
第6号議案 評議員会の開催及び提案事項について
第7号議案 役員等賠償責任保険契約の更新について
- 報告事項 報告第1号 理事長先決を含む業務執行に係る報告について
報告第2号 その他

(2) 評議員会

- ①開催日時 令和5(2023)年6月7日(水) 午後6時00分から7時15分まで
- 開催場所 さわらび園3階カウンセリングルーム
- 出席評議員 青山達雄 坪内勝彦 野々山郁 渡邊幸良 江部眞弓
- 欠席評議員 鵜飼信孝 森宏典 堀美和子
- 出席監事 菅沢 豊 出席理事 追分伸夫 山本智恵 島崎徹也
- 決議事項 第1号議案 令和4(2022)年度 決算について(監事監査含む)
第2号議案 理事、監事の選任について
- 報告事項 報告第1号 令和4(2022)年度 事業報告について
報告第2号 諸規定の新設及び改定について
報告第3号 べにしだの家第3作業室感染防止対策整備工事について
報告第4号 その他
- ②開催日時 令和5(2023)年11月29日(水)
- 開催場所 さわらび園3階カウンセリングルーム
- 出席評議員 鵜飼信孝、青山達雄、野々山郁、坪内勝彦、江部眞弓、渡邊幸良、堀美和子
- 欠席評議員 森 弘典
- 出席理事 追分伸夫、山本智恵
- 決議事項 第1号議案 令和5(2023)年度予算の一部補正について
- 報告事項 報告第1号 べにしだの家における溺水事故について
報告第2号 諸規程の改定について
報告第3号 来年度体制について
報告第4号 べにしだの家施設整備事業(換気設備)について
報告第5号 その他
- ③開催日時 令和6(2024)年3月27日(水) 午後6時00分から8時00分まで

開催場所 さわらび園3階カウンセリングルーム
 出席評議員 青山達雄、坪内勝彦、鵜飼信孝、野々山郁、江部眞弓、渡邊幸良、堀美和子
 欠席評議員 森 弘典 出席監事 北村榮章
 出席理事 追分伸夫 山本智恵 島崎徹也 出席施設長 田中雅樹 鷺見まち子
 決議事項 第1号議案 令和5(2023)年度予算の一部補正について
 第2号議案 令和6(2024)年度 事業計画について
 第3号議案 令和6(2024)年度 予算について
 報告事項 報告第1号 理事長先決を含む業務執行に係る報告について
 報告第2号 役員等賠償責任保険の更新について
 報告第3号 その他

(3) 施設長会<全22回開催>

*あさみどりの風との合同 4月11日、6月13日、7月19日、8月22日、10月17日
 12月25日、1月3日、1月10日、1月25日、2月29日、3月6日(計11回)
 *会のみ 4月10日、5月16日、7月11日、8月30日、9月12日、11月16日
 12月12日、1月16日、1月31日、2月17日、3月14日(計11回)

(4) 施設長・主任会<全4回開催>

4月18日、7月13日、10月12日、1月11日

(5) 職種別部会

*支援スタッフ部会：4回開催
 *事務担当者部会：2回開催

(6) 委員会

*ボランティア育成委員会：21回開催 (Vo.サークル連絡協議会、Vo.スクール企画会議含む)
 *療育研究活動委員会：9回開催
 *広報委員会：2回開催

(7) 虐待防止拡大会議<全3回開催>

7月4日、11月2日、2月27日

(8) 連絡会議

①CA 連絡会議：3回開催
 ②GH 連絡会議：5回開催

2 事業

(1) 社会福祉事業 (各事業所報告参照...P9～)

(2) 公益を目的とする事業

ア) 療育援助事業

既存の諸制度の網の目からもれた部分等で、援助を必要とする障害児(者)および家族・団体への援助を行い、家庭療育・地域療育の促進をはかるため次の事業を実施した。

①療育相談

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
さわらび園	6	6	5	7	0	13	5	10	10	9	8	22	101
べにしだの家	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
れいんぼうワークス	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	5
計	7	6	5	9	2	13	5	10	10	9	8	22	106

①-2 年齢別内訳

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
6歳未満	6	6	5	7	0	13	5	10	10	9	8	22	101
6歳以上	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	5
計	7	6	5	9	2	13	5	10	10	9	8	22	106

②在宅心身障害児の家庭療育援助および各地療育グループの援助

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施回数	6	9	11	17	16	7	19	11	15	5	15	5	136
対象人数	2	10	22	98	31	37	159	146	106	37	252	0	900
援助者数	16	42	51	71	81	26	97	56	88	18	77	42	665

【療育グループ活動状況（8団体）】

グループ名	主 な 活 動	代表者
同朋大学 心身障害福祉研究会	あさみどりの会等における療育援助活動	徳山恵利那
新池子どもクラブ ボランティア	地域の小中学生及び障害児を対象とした療育援助活動	平野飛鳥
南山大学 ボランティアサークル	愛知県赤十字血液センター献血活動・あさみどりの会等における療育援助活動	宮寄大昌
椋山女学園大学 うえるかむ	あさみどりの会等における療育援助活動	上野真樹
らいぶ遊	手作りバリアフリーライブイベントの企画、開催	荒木友章
なないろコンサート実行委員会	なないろ（福祉）コンサートの企画、開催	丹下 靖
ボランティアスクール企画委員会	ボランティアスクール（全5講）の企画、開催	伊東宏崇
ジャイアントステップス	利用者主体の余暇及び社会参加活動の支援	中野則恵

③ 療育グループ

③-1 学童療育グループ（しんいけ子どもクラブ等でのフォローを含む）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施回数	8	14	10	14	6	11	12	11	8	11	8	6	119
参加人数	67	75	56	87	23	50	46	48	64	52	51	56	675
ボラ参加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

③-2 乳幼児療育グループ

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施回数	6	8	8	6	0	8	6	10	6	8	8	2	76
参加人数	49	71	73	62	0	88	68	118	90	104	112	40	875
ボラ参加	0	0	0	0	0	0	0	5	2	2	1	1	11

④母親研修会(心身障害についての基礎学習) ※コロナ感染防止のためすべて中止

イ) ボランティア育成事業

社会人及び学生を対象に、福祉に対する啓発と参加を意図した基礎的、専門的学習の機会を設け、ボランティア実践への方向づけを行うとともに、すでに実践活動に入っているサークル及び個人への支援を行った。今年度も新型コロナウイルス感染の拡がりから、オンラインでの開催を中心とし、内1回はフィールドワークの講座を実施した。

①ボランティア・スクール（年1回、中日新聞社・中日新聞社会事業団共催）

第79回（5講座 受講者93名）

月日	テ ー マ	講 師（敬称略）	参加人数
10 11	困りごとをチャンスに	とよた多世代参加支援プロジェクト事務局 合同会社 P-BEANS ソーシャルデザイン事業マネージャー 栗本浩一 氏	17
10 18	生活困窮者の暮らしに 寄り添いながら	NPO ささしまサポートセンター 障害者グループホーム博愛の郷規俊荘管理者 橋本恵一 氏	21
10 25	体験から知る ひろがる世界	名東区手をつなぐ育成会「なでしこメイト」 青山奈津子 氏・片桐美由紀 氏	19
11 4	交わる ～出会いの中で生まれるもの～	べにフェス ボランティア体験	6
12 9	あなたらしく、私らしく ～それぞれの居場所づくりのために～	特別支援学校教諭/マナビのWA 代表 矢野良太 氏	30

②ボランティアグループの育成（サークル助成金）

月日	助成団体	活動回数	助成金額
4 随時	同朋大学心身障害福祉研究会 新池子どもクラブボランティア 南山大学ボランティアサークル ボランティアスクール実行委員会 椋山女学園大学うえるかむ なないろコンサート実行委員会 ジャイアントステップス	療育援助事業及びボラン ティア育成事業に計上	各サークル 20,000円
前期			
10~ 随時	同朋大学心身障害福祉研究会 新池子どもクラブボランティア 南山大学ボランティアサークル ボランティアスクール実行委員会 椋山女学園大学うえるかむ なないろコンサート実行委員会 ボランティアスクール企画委員会 ジャイアントステップス	療育援助事業及びボラン ティア育成事業に計上	各サークル 20,000円 ※ボランティアスクー ル企画委員会は 30,000円
後期			

③なないろコンサート

12月3日（日）13：00～15：30 もえの丘（北名古屋市総合福祉センター）

出演者：なないろバンド、ポパイ座銀河団

参加のべ人数：130名 ボランティアのべ：25名

④あさみどりボランティアサークル連絡協議会

	会議内容	出席者	参加人数
4月22日	<ul style="list-style-type: none"> あさみどりの会のボランティアについて ボランティアサークル、個人ボランティアの紹介 法人各事業所年間行事予定の案内 ボランティアスクールの案内 情報交換 	団体 7名 個人 1名 法人職員 6名	14

⑤ボランティア受入状況（行事参加等も含む）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
さわらび園	5	7	3	1	0	6	2	2	2	6	2	7	43
べにしだの家	0	0	0	0	0	0	0	6	0	56	0	0	62
あらくさ作業室	2	7	6	5	1	6	4	7	5	2	3	3	51
れいんぼうワークス	1	24	76	23	2	0	18	59	0	0	26	3	232
計	8	38	85	29	3	12	24	74	7	64	31	13	388

⑥学校実習・体験実習（障がいのある方等の受入れは除く）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
さわらび園	0	0	44	36	40	27	20	52	34	0	30	0	283
べにしだの家	6	1	5	19	24	50	53	60	16	13	0	40	287
あらくさ作業室	0	0	0	0	0	0	15	0	0	10	4	20	49
れいんぼうワークス	0	0	0	20	0	0	0	40	0	0	0	0	60
計	6	1	49	75	64	77	88	152	50	23	34	60	679

ウ) 地域啓発事業

オンラインも駆使しながら福祉活動への参加や研修、学習の機会を提供し、コミュニティ・ケアの担い手となる人々の輪が広がっていくよう働きかけを行った。

①機関誌『療育援助』の発行(月1回) □発行回数 12回 □発行部数 毎回1,000部

配布数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
郵送数	327	325	324	322	322	323	320	321	319	319	318	317	3,857
メール配信	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	124	124	1,498
手渡数	548	550	551	553	553	552	555	554	556	556	558	559	6,645

②第60回心身障害問題を考える集い

月日	テ ー マ	講 師 (敬称略)	参加人数	
7	1	護られるべき 子どもたちの未来	北浦 茂 氏 (学校法人西濃学園 学園長) 太田宣子 氏 (学校法人西濃学園スクールカウンセラー)	54

③第16回フォーラムあさみどり

月日	テ ー マ	講 師 (敬称略)	参加人数	
5	21	あさみどりが目指してきたもの ～50年間の活動を振り返って～	島崎春樹氏 (あさみどりの会顧問)	74

④れいんぼう祭 (6月17日 参加人数: 60名/Vo 含全参加者数)

⑤しんいけ盆おどり (7月22日 参加人数: 22名/Vo 参加)

⑥さわらび運動会 (10月8日 参加人数: 11名/Vo 参加)

⑦べにフェス (11月4日 参加人数: 119名/Vo 含全参加者数)

⑧さわらび祭 (2月11日 参加人数: 27名/Vo 参加)

⑨しんいけ子どもクラブ

月日	テ ー マ	参加人数	ボラ参加数	
6	11	会員証作り 散策	22	6
7	28/30	サマーキャンプ	18	6
9	10	ミニ運動会	24	6
12	24	クリスマス会	18	3
2	25	6年生を送る会 レクリエーション	19	4

⑩施設の地域解放

施設	利用団体	回数
さわらび園	町内会	1
べにしだの家	町内会、なないろコンサート、ひょうたんカフェ	6
あらくさ	なし	0
れいんぼうワークス	なし	0

⑪Live YOU (年間1回/参加ボランティア: 8名)

月日	テ ー マ	参加人数	ボラ参加数【出演者含む】	
1	13	ありのままの姿でありのままに楽しみましょう	約100名	56

⑫事業所見学会 (障がいのある方の生活を支える支援者養成講座)

月 日	テ ー マ	場 所	参加人数	
7	17/21/22	れいんぼうグループホーム見学会	れいんぼう虹の家V	8
9	6	令和5年度グループホーム見学・相談会	れいんぼう虹の家V	3
12	6/8/9	れいんぼうグループホーム見学会	れいんぼう虹の家V	5
12	6/7/10	あらくさホーム見学会	あらくさ神田ホーム	3

エ) 野外活動事業 (詳細は事業所報告参照)

あさみどりの会研修所「郡上山の家」の運営を通して、人間と自然とのふれあい、合宿による人間同士のふれあいを通して真の人間性の回復をはかった。

さわらび園親子療育キャンプ(8月) / あらくさ作業室山の家合宿(9月)
れいんぼうワークス山の家合宿 / 療育グループ親子療育キャンプ(中止)
新池子どもクラブ・サマーキャンプ(7月) / 学童合宿(9月)

オ) 家族の支援活動

障害をもった子どもの生涯の幸せを願って、計画的に活動する保護者のグループを支援した。5月28日後援会役員会にて各グループの情報交換を行った。又、各事業所で「きょうだい会」年2回（うち1回は成人施設合同）のうち合同のきょうだい会については新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。

(3) 職員研修

①法人全体研修

- ア) 4月8日(土) <ハイブリッド開催 会場：さわらび・べにしだ >
内容：講義「障害者虐待を防止するために」追分伸夫専務理事
講義、「今、あさみどりの会の理念を活かすもの」後藤秀爾理事長
実践研究発表（べにしだ）グループワーク
- イ) 9月9日(土)あさみどりグループ職員研修
<ハイブリッド開催 会場：さわらび・べにしだ・わらび >
内容：実践研究発表（さわらび①②、あらくさ）

②階層別研修

- ア) 新任職員研修（新規採用職員対象）
6月24日(土) <さわらび> 9名参加
内容：療育体験・グループワーク
- イ) 初級職員研修（2～3年目職員対象）
1月11日(木) <あらくさ> 6名参加
内容：体験型プログラム・充実度グラフ・グループワーク
- ウ) 中級職員研修（4～10年目職員対象）
11月18日(土) <べにしだ> 10名参加
内容：講義「スーパービジョンの基礎を学ぶ」講師同朋大学社会福祉学部教授下山久之氏
- エ) リーダー職員研修（11年以上職員対象）
12月5日(火)7日(木) <べにしだ> 19名参加
内容：グループセッション「より魅力的な施設にしていくために」

③インシデント・プロセス研修 さわらび園にて年10回開催

講師：山田敦朗氏（名古屋市立大学大学院医学博士）
参加対象人数：14名

④宿泊型療育実地研修

中学生合宿 9月16日(土)～18日(月・祝) <郡上山の家> 1名参加

⑤ホーム新人世話人研修（4月23日 べにしだの家 12人参加 講師2名 スタッフ5名）

内容：グループホーム及び障がい（特性含む）について。ホームでの業務について。
てんかん発作について。

⑥発達障害対応研修

○講師：小林信篤氏（横浜やまびこの里）
れいんぼうワークス：7月8日(土)16名参加／9月30日(土)17名参加／1月27日(土)19名参加
あらくさ作業室：7月8日(土)22名参加／9月30日(土)13名参加／1月27日(土)12名参加

⑦事務担当者研修

8月29日(火) 6名参加 内容：インボイス、他 村上正城 顧問税理士

⑧施設長・主任研修

4月13日(木) <さわらび> 9名参加 内容：ブランディング研修

⑨各施設におけるその他の研修活動 各事業所報告等参照

⑩外部研修への参加 各事業所報告等参照

⑪社会福祉士・介護福祉士の資格取得の奨励

(4) 苦情処理状況

法人経営の各施設・事業の提供する福祉サービスに対する苦情処理については、平成13年施行の「福祉サービスに関する苦情解決規程」により処理することとしているが、その場で解決するものについてはこの規程を適用せず、関係者に伝達し協議する必要があるものは「苦情処理票」によって処理することとしてきた。令和4年度に、苦情処理票により処理をした件数は下記のとおりである。

		さわらび	べにしだ	れいんぼう
苦情処理票等により処理した件数		0	1	0
申出者	利用者本人	0	0	0
	利用者の家族	0	0	0
	近隣住民・その他	0	1	0
内容	利用者に対する職員の対応	0	0	0
	利用者に対するサービス向上	0	0	0
	利用者の生活環境の改善	0	0	0
	施設・事業運営に対する不満	0	0	0
	その他	0	1	0
方法	職員・施設長と解決策を協議	0	0	0
	要望どおり解決できないことを説明	0	0	0
結果	解決の方法・内容に納得した	0	0	0
	解決の方法・内容に不満がある	0	0	0
	処理結果を職員に周知する	0	0	0

苦情処理した件数は、さわらび園0件、べにしだの家1件、れいんぼうワークス0件であった。

各施設とも苦情処理票によらない苦情についても職員に周知し、同様の問題が起きないように対処していくとともに、ヒヤリハット等の取り組みも継続していきながら、職員一人ひとりの意識向上を図っている。

1. 総括

【さわらび園】

5月よりコロナが5類となったこともあり、感染拡大防止に留意しながらも、従来の内容に戻していく形態をとりながら、事業運営を行った。

児童発達支援事業については、年間通して園児の入れ替わりはなく、継続した支援を行うことが出来た。療育形態としては、コロナ禍の間行っていた時差登園を終了し、全園児共通の療育時間とした上で、行事についても全体で行う形式に戻した。宿泊を伴う行事については、春の宿泊療育と療育キャンプについては進級児のみを対象として実施し、秋の宿泊療育は全園児を対象に行った。保護者のプログラムについては、母親研修会および父親参観日や父親研修会など、全体での開催とした。保護者間の交流の機会が増えたことで、保護者同士の関係性やつながりが深まり、ピアサポートの動きが出てきている。また、令和5年度より、非常勤の看護師を配置し、医療的ケア児の受入れの体制整備を始めた。

保育所等訪問支援事業は、訪問先として、新規の訪問先が徐々に増え、小学校への訪問実績も重なってきている。

障害児相談支援事業は、小学校高学年になる児童については、地域の相談支援事業所への移行を進め、幼児期の児童の新規の受け入れを行える体制整備に努めた。

療育グループ事業については、コロナ禍の間、中止していた保護者向けのプログラムを再開し、就園前のりとするぐらうぶはグループカウンセリング、並行グループのジョイフルはサポートブック作成講座を行った。学童療育についても、全体での活動を再開し、学年を越えて共に参加する機会をつくった。また、学齢期の支援としての宿泊体験への職員派遣および山の家での中学生合宿を再開した。

地域開放としては、4年ぶりに地域にも向けて、さわらび祭を開催した。時間や内容は一部縮小しての開催ではあったが、当日は多くの方々に来場していただくことができた。また、年度末に園児の手形足形アート作品づくりのワークショップを行い、その作品を名古屋市発達障害啓発プロジェクト2024の作品展示として協力・発信する機会をいただいた。

コロナ禍が明け、各事業共に、縮小していた活動を徐々に再開することができた一年であった。

【べにしだの家】

10月にグループホームご利用の40歳男性が入浴中に溺水し、亡くられるという大変辛い出来事があった。かけがえのない存在を私たちの支援の下で亡くしてしまったことは痛恨の極みであり、ご本人ご遺族には只々深くお詫びを申し上げるばかりである。決して風化させることなく、また二度と繰り返さないために、今後継続的に事故防止に向けた啓発と対策に取り組んでいく決意である。

事業活動においてはコロナ禍が漸く落ち着きを見せ、通常の運営の回復に努めてきた。インフルエンザとコロナが重なり、2週間程活動エリアを限定して生活介護を行うといった変則的な体制をとることもあったが、ここ数年で利用者やスタッフが対応に慣れてきていることもあり、大きな混乱はなく過ごすことが出来た。

生活介護は作業室の再編成や合理的配慮を意識した環境を改めて整え、パーテーションなどを用いて、より活動スペースの個別化を図った。高齢化してきている利用者に対しては、より一人ひとりのニーズや生きがいに応じた活動としてアートに力を入れ取り組んできた。継続的に取り組んできたこともあってか、岡崎や栄でのグループ展に招待されるなど世間の認知も向上してきており、そのことでスタッフや利用者の日々の活動のモチベーションアップにも繋がっている。

施設入所やグループホームでは改めて現在の居住空間が利用者の生活に合った環境になっているのかといった課題や、親の高齢化により365日の利用が必然となってきた利用者の増加などを踏まえて生活環境全体の見直しを行い、編成の変更を検討した。また少しずつではあるが職員が補充されてきたことから、利用人数に制限を設けつつもショートステイを再開することができた。施設入所のホーム化に係る課題については、中断していた名古屋市との協議を来年度以降再開し、ホーム化に拘らず「将来に向けた適切な居住環境整備」という観点からリーダー職員主体に検討を重ねながら今後進めていく方向で動いている。

コロナの影響で制限を余儀なくされていた地域交流イベント「らいぶ遊」改め「LiVE YOU」を、より地域や他事業所との繋がりを強めたものとして久しぶりに一堂に集合し盛大に開催することができた。多くの参加者に来所いただき、様々な人材との繋がりが広がってきている。

慢性的な人材難が続き、支援体制の確保に苦慮することが続いていたが、来年度に向けては新卒者、中途採用合わせ6名の職員が加わり、これまでよりゆとりを持って活動に取り組める期待を感じてい

る。年々業務が過重になっていく医務や事務などの将来に亘る人材確保の課題は依然としてあり、引き続き募集を継続していく必要がある。

南海トラフの発生が危惧されている中で、今年元旦に発生した能登の震災に鑑み、冒頭の件と同様に暮らしを支えていく場で多くの命に向き合うことの重みを改めて強く感じている。関係者の安全確保対策は喫緊の課題であり、効果的に活用できるBCPの策定と継続的な訓練による防災意識の向上に努めていきたい。

あらくさ作業室においては、2名の新規利用者、正規職員も3名新しくなり、体制の変化があった。が、発達障害対応研修や法人職員研修での事例検討の機会を得て、利用者支援の方向性を一つにすることができていった。作業についてはパン店の営業日数を増やし、売り上げが約75万円ほど増えた。8月に新型コロナ感染が利用者ご家族にも広がり、体調回復が懸念されたが幸い大事にはいたらなかった。令和6年度の独立を控え、まずは作業所内でのスタッフ間の連携に努めた1年であった。

【れいんぼうワークス】

5月よりコロナが5類となったこともあり、感染拡大防止に留意しながらも、行事やイベントのあり方を再検討しながら事業運営を行った。6月のみんなのれいんぼう祭は昨年引き続き利用者主体のイベントとして行い、学生を中心としたボランティアの方に多く参加していただいた。10月～11月に3年ぶりに一泊旅行に出かけることができ、3班に分かれて実施した。生活介護の農福連携の取り組みでは初めて米作りを行い、地域の中学生、さわらび卒園の親子と共に利用者が田植え、稲刈りを行った。また、さつまいもの苗植え、収穫体験を地域の小学生、農業科の高校生と一緒にイベントを利用者も交えて交流しながら行った。また、農業科の高校よりミニトマトの収穫体験に招待されたり、ミニトマトのジャムのレシピを開発した高校生たちが施設に訪問し、活動報告や商品紹介するなど、地域と更なる交流を深めた。また、オーガニック野菜を学校給食に普及させる団体とのつながりが生まれ、地域の小中学校の学校給食に野菜を提供することができた。

共同生活援助では、さわらび園卒園の社会人が宿泊利用体験を経て、新たな利用者として10月より加わるようになった。365日体制へ向けた計画的な週末利用をホーム毎に実施する以外に、家庭の状況に合わせて週末利用を行う回数が増えてきている。ホーム見学会と講座を合わせて実施し、有期契約職員の雇用に繋がった。週末利用のニーズ増加に対応していくために有期契約職員に週末対応を担ってもらえるよう計画的に配属場所や時間帯を工夫し、引継ぎを行った。

将来に対する備えとして、家族会で成年後見制度について外部講師を招いて学習会を行ったり、防災カードという非常時の情報共有ツールの作成を家族に依頼した。引き続き、施設備蓄品の見直しや防災意識の向上に努めていきたい。

2. さわらび園の事業状況

(1) 障害児通所支援事業

1) 児童発達支援事業（園児）

①利用状況

○年齢・男女別（中途退園・入園を含む）

学年齢		2才	3才	4才	5才	小計	総計
市	男	4	6	8	6	24	30
	女			2	4	6	
計		4	6	10	10	30	30

○月初日在籍数・開所日数・利用延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
日数	18	18	21	21	19	19	20	17	16	18	18	19	224
人数	429	416	488	459	313	466	504	340	384	448	431	437	5115

○主な障害 <ASD=自閉スペクトラム症>

障害名	男	女	計
ASD・知的障害	19	3	22
ASD	1	1	2
知的障害	3	1	4
ダウン症	1	1	2
計	24	6	30

○通園区域別

名古屋市									
通園区域	人数	通園区域	人数	通園区域	人数	通園区域	人数	通園区域	人数
千種区	10	名東区	10	守山区	8	天白区	1	北区	1

○発達状況（K式発達検査結果より）

DQ	20以下	21～35	36～50	51～74	75以上
人数	2	2	8	12	6

②令和5年度新入園児状況<途中入園も含む>

○年齢・男女別

学年齢		2才	3才	4才	5才	小計	総計
市	男	4	2	1		7	7
	女						
計		4	2	1		7	7

○主な障害

障害名	男	女	計
ASD・知的障害	7		7
計	7		7

③令和5年度卒退園児状況（進路先・男女別）

進路先		通常学級	特別支援学級	特別支援学校	保育園	計
市	男	1	3	2		6
	女		4		1	5
計		1	7	2	1	11

④主な実施行事

4月		5月		6月	
4日	入園式	15日	新入園児歓迎会	2～3日	宿泊療育（きりんG）

28日 子どもの日行事	19日 春の遠足 26～27日 宿泊療育(ぞう・パンダG)	17日 父親参観日 27日 健康診断
7月	8月	9月
7日 七夕行事 22日 さわらび夏祭り	18～20日 親子療育キャンプ(ぞう・パンダG) 25～27日 親子療育キャンプ(きりんG)	
10月	11月	12月
8日 さわらび運動会 12日 第2期始業式 27日 秋の遠足 28日 父親研修会	4～5日 宿泊療育(ぞう・パンダG) 11～12日 宿泊療育(きりん・コアラG) 21日 健康診断 30日 成人施設見学(きりん・コアラG)	2日 年末懇親会 5日 成人施設見学(ぞう・パンダG) 22日 クリスマス会
1月	2月	3月
26日 節分	11日 さわらび祭	2日 学習発表会 15日 お別れパーティー 20日 卒園式 23日 母親送別会 27日 第2期終業式

*誕生会は毎月、歯科検診は年10回実施。

*宿泊療育(春)および親子療育キャンプは進級児のみを対象に実施

*母親研修会 年10回開催

<主な行事の参加状況>

ア) 宿泊療育<さわらび園にて実施>

- (春)参加状況 5/26(金)～27(土) 参加対象:ぞう・パンダG/参加園児:13名
6/ 2(金)～ 3(土) 参加対象:きりんG/参加園児:8名
- (秋)参加状況 11/ 4(金)～ 5(土) 参加対象:ぞう・パンダG/参加園児:16名
11/11(金)～12(土) 参加対象:きりん・コアラG/参加園児:11名

イ) さわらび親子療育キャンプ

○参加状況

- 8/18(金)～20(日) 参加対象:ぞう・パンダG
園児:10名 きょうだい:7名 母親:10名 父親:10名 ボランティア:21名
- 8/25(金)～27(日) 参加対象:きりんG
園児:5名 きょうだい:7名 母親:5名 父親:5名 ボランティア:10名

⑤保護者の学習

○母親の学習

- ・母親グループカウンセリング(2グループごとの実施/10:15～11:45)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	4	6	7	4	2	4	5	7	2	4	2	4	51
延人数	45	55	65	42	15	38	41	63	13	38	21	38	474

*宿泊療育のビデオによるフィードバック含む。

- ・その他:発達相談・個別相談実施

○父親の学習

- ・父親参観日:6月17日(土)/参加人数:20名(療育参観及びグループ懇談)
- ・父親研修会:10月28日(土)/参加人数:18名
卒園児父親による体験談(久野格彦氏(クラブヤジロ)・谷口弘記氏(かたつむり)/聞き手:島崎徹也)

⑥その他

- ・卒園児のアフターケア(訪問):特別支援学級4名 特別支援学校1名 保育園2名

2) 保育所等訪問支援事業

(利用状況)

○契約者数(年齢・男女別)

学年齢		3才	4才	5才	6才	7才	10才	計
市	男	2	6	5	2	2	1	18
	女		2	1				3

計	2	8	6	2	2	1	21
---	---	---	---	---	---	---	----

○月別訪問件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
訪問	18	17	18	18	16	22	23	20	22	20	15	21	230
事業説明	4	1	1			1						1	8

○訪問先

訪問先	保育園	幼稚園	こども園	小学校
箇所数	7	4	2	5

(2) 障害児相談支援事業【利用状況】

○契約者数（年齢・男女別）

学年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	
市	男	2	10	10	18	6	7	10	9	12	6	4	1	2	1	98
	女		1		3	6	3	1	3	2	1	2	1		1	24
計	2	11	10	21	12	10	11	12	14	7	6	2	2	2	122	

○月別相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
本計画	50	6	6	5	5	8	9	6	4	4	3	2	108
モニタリング	3	9	4	9	7	36	4	5	4	1	6	5	93
基本相談	6	5	4	1	2	1	2	4	3	2		3	33
事業所連携	12	23	23	29	11	25	35	27	16	23	11	18	253
計	71	43	37	44	25	70	50	42	27	30	20	28	487

(3) 療育グループ事業

1) りとるぐるうぶ(就園前 G)の状況 *令和5年度利用者は38名。園児への移行は5名。

○年齢・男女別

学年齢	0才	1才	2才	3才	小計	総計
市	男	10	23		33	38
	女	2	3		5	
計		12	26		38	

○月初日在籍数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
市	11	11	12	16	17	18	21	22	23	27	31	33

○通園区分（令和5年度利用者）

区域	人数	区域	人数	区域	人数	区域	人数
千種区	16	名東区	20	守山区	1	天白区	1

○主な障害（令和5年度利用者）

障害名	男	女	計
ASD（疑い含む）	10		10
ADHD（疑い含む）	1		1
MR	2	1	3
言語発達遅滞	2	1	3
インテーク済	18	3	21
計	33	5	38

○療育回数及び出席延人数（2部制での実施）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	3	4	4	3		4	3	5	3	4	4	1	38
延人数	22	31	37	31		56	44	82	62	74	80	28	547

○母親グループカウンセリング

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数		1	1			1	1	2		2	1		9
延人数		9	10			8	3	16		10	3		59

2) 親子教室「ジョイフル」(並行 G)の状況

*令和5年度利用者は41名。園児への移行は1名。

○年齢・男女別

学年齢	2才	3才	4才	5才	小計	総計
市	男	11	7	9	27	41
	女	6	5	3	14	
計		17	12	12	41	41

○月初日在籍数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
市	34	35	35	35	35	35	32	31	34	34	34	33

○通園区分(令和5年度利用者)

区域	人数	区域	人数	区域	人数	区域	人数	区域	人数
千種区	25	名東区	10	守山区	3	昭和区	1	瑞穂区	1
緑区	1								

○主な障害(令和5年度利用者)

障害名	男	女	計
ASD(疑い含む)	16	3	19
ADHD	2	1	3
MR	1		1
言語発達遅滞	3	1	4
低身長・低体重		1	1
多動症	2	1	3
不明	4	6	10
計	28	13	41

○療育回数及び出席延人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	3	4	4	3		4	3	5	3	4	4	1	38
延人数	27	40	36	31		32	24	36	28	30	32	12	328

○サポートブック作成講座

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数							2	2		2			6
延人数							16	16		10			42

3) 学童療育の状況

○年齢・男女別

学年	1	2	3	4	5	6	中1	中2	中3	小計	総計	
市	男	3	7	9	5	5	2	3	4		38	52
	女	2		2	2	1	2	3	1	1		
県外	男				2							3
	女	1										
計	6	7	11	9	6	4	6	5	1	55	55	

○令和5年度新規学童入所 ・名古屋市 5名 ・市外 1名

○療育(放課後クラブ含む)およびグループカウンセリングの実施状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
療育	回数	1	4	2	5		4		2	3	4	3	1	29
	人数	33	27	20	44		19		6	41	22	25	28	265
GC	回数	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2		20
	人数	14	10	5	4		11	4	10	2	11	8		79
クラブ	回数	7	10	8	7	5	6	10	8	5	7	5	5	83
	人数	34	48	36	36	19	25	36	39	23	30	28	28	382

○学校種別 ・特別支援学級 39名 ・特別支援学校 7名 ・通常学級 9名

○その他 ・母親の会合宿(全7回/参加者:児童24名<一部は親子合宿>、職員派遣6名)
中学生合宿 9/16(土)~18(月・祝) 中学生4名 職員3名

(4) 職員研修及び職員派遣

1) 職員研修

○施設外研修 児童発達支援施設現任職員研修会等・東海地区職員研究大会・全国職員研究大会等
名障連・名古屋市関係:専門研修・基礎研修・中堅職員研修・職種別研修・施設見学等
施設長研修:福祉協会関係・名古屋市及び社会福祉協議会関係・児童発達支援部会関係等

2) 職員派遣

○名東保健センター(乳幼児発達相談):毎月第3水曜日午前/保育士(渡邊友子)派遣
○千種保健センター(親子教室):毎月第2火曜日午前/心理判定員(平野飛鳥)派遣
○コアラの会(千種区親の会):毎月第2木曜日午前/相談員(大澤夕佳)派遣
○千種区障害者自立支援連絡協議会定例会及び子ども部会:毎月1回
○名東区障害者自立支援連絡協議会そだつ部会(児童部会):毎月1回
○父親のグループ(令和5年度):クラブヤジオ(会員:約18名/本人年齢:18~24才)
かたつむり(会員:約20名/本人年齢:14~17才)

(5) ヒヤリハット・事故

種別 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
外傷(噛みつき、ひっかき)	1	2	1		2	1	1		1	1	1	3	14
脱臼										2			2
転倒・衝突					1			2				1	4
服薬			1		1						1		3
健康観察								1					1
誤嚥										1			1
アレルギー					1		1				1		3
給食異物混入			1	1						1			3
個人情報							1						1
物損		1								1			2
計	1	3	3	1	5	1	3	3	1	6	3	4	34

※最も件数として多かったのは、園児同士の接触による噛みつきやひっかきの外傷であった。その都度、職員間での振り返りを行い、対応につなげる取り組みを行った。また、転倒による頭部外傷および園児同士の衝突による転倒で、2件の救急搬送を行った。いずれも頭部の外傷および打撲だったため、即断して救急車の要請をしたが、大事に至らずに済んだことは幸いであった。引き続き、環境や対応の工夫に努めると共に、万が一怪我や事故が起きてしまった際の動きについて職員間で共有し、迅速な対応につなげられるようにしていきたい。

3. 成人各施設の事業状況

(1) 利用者状況（令和5年3月31日）

1) 日中活動利用者

①年齢層・性別 < () は内65歳以上の利用者>

	年 齢 層						性 別		計
	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上	男	女	
べにしだの家	2	5	9	30	17	5(4)	41(2)	27(2)	68(4)
れいんぼうワークス	0	4	7	12	0	0	17	6	23
計	2	9	16	42	17	5(4)	58(2)	33(2)	91(4)

②障害支援区分 < () は内65歳以上の利用者>

	障 害 支 援 区 分						計
	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	
べにしだの家	0	2	13(1)	17	36(3)	0	68(4)
れいんぼうワークス	0	0	2	13	8	0	23
計	0	2	15(1)	30	44(3)	0	91(4)

2) 入所・共同生活援助事業利用者

①年齢層・性別 < () は内65歳以上の利用者>

	年 齢 層						性 別		計
	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上	男	女	
べにしだの家（施設入所支援）	0	0	3	10	8	4(2)	15	10(2)	25(2)
べにしだ共同生活援助事業所	0	2	5	18	10	3(2)	24(2)	14	38(2)
れいんぼう共同生活援助事業所	0	7	8	15	0	0	21	9	30
計	0	9	16	43	18	7(4)	60(2)	33(2)	93(4)

②障害支援区分 < () は内65歳以上の利用者>

	障 害 支 援 区 分 別						計
	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	
べにしだの家（施設入所支援）	0	0	1	7	17(2)	0	25(2)
べにしだ共同生活援助事業所	0	1	13(1)	7	17(1)	0	38(2)
れいんぼう共同生活援助事業所	0	1	6	13	10	0	30
計	0	2	20(1)	27	44(3)	0	93(4)

(2) 月別利用状況

1) 日中活動（一日の平均利用状況：小数点以下切り捨て）

べにしだの家	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	22	23	23	22	22	22	23	23	21	21	22	22	266
生活介護(定員70名)	65	65	65	65	62	65	62	65	65	64	64	64	64

れいんぼうワークス	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	21	24	24	22	22	22	23	23	22	22	23	24	270
生活介護(定員23名)	19	22	22	21	20	20	21	21	21	20	20	21	20

2) 入所・共同生活援助（一日の平均利用状況：小数点以下切り捨て）

べにしだの家	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
施設入所(定員30名)	23	24	24	24	24	23	24	24	24	24	23	24	23
共同生活援助(定員43名)	30	32	31	30	27	32	29	30	28	27	29	30	29

れいんぼうワークス	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
共同生活援助(定員30名)	21	22	22	22	20	22	23	24	22	20	24	23	22

3) 日中一時・短期入所 (月毎延べ利用者数)

べにしだの家	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日中一時(定員4名)	10	9	11	15	26	11	7	0	0	0	0	0	89
短期入所(定員2+空床)	35	34	34	56	55	68	52	64	61	42	45	49	595
れいんぼうワークス	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日中一時(定員5名)	1	4	22	9	1	1	0	2	4	4	1	2	51

(3) 相談支援事業

【べにしだの家】 (延べ件数)

種別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
基本相談		62	70	83	85	92	80	48	74	82	55	62	68	861
サービス等利用計画作成		15	5	8	8	7	6	5	6	7	8	6	8	89
モニタリング		14	20	28	33	34	37	15	28	31	34	31	28	333
自立支援協議会参加		1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	2	2	12
計		92	96	119	127	134	124	69	108	121	98	101	106	1295

(4) 作業実績

1) 作業室別・業者別売上

* () 内は前年度増減比 / (単位:円)

【べにしだの家】 内部取引含む

第1作業室/クリーニング・自動車部品検査		第2作業室/自動車部品検査		第3作業室/自動車部品組付		ゆう作業室
業者	売上	業者	売上	業者	売上	
クリーニング(一般他)	828,325	そうぎょう	675,267	三好化工	0	心身機能の維持 増進
ケイアイ加工	0	そうぎょう	219,306	ヤマサ製作所	1,048	
828,325(+33,615)		894,573(+207,337)		1,048(-155,482)		
あらい作業室/箱折り・自動車部品検査		あらくさ作業室/製パン・自動車部品検査等		その他		合計
業者	売上	業者	売上	業者	売上	5,903,950 (+546,016)
岩田紙器	92,104	製パン	3,356,267	一般	560	
ケイアイ加工	35,932	その他作業	373,808	自主製品販売	208,521	
T&M	12,000	さおり・雑貨販売	100,812			
140,036(-123,594)		3,830,887(+513,258)		209,081(+70,882)		

【れいんぼうワークス】 内部取引含む

部品等の組付・検品作業・刺繍製品等自主製品		農作物生産・販売		合計
業者	売上	業者	売上	
そうぎょう	688,224	マザーキッチン	0	1,569,251 (-10,899)
服部	80,438	団体	96,936	
その他受注作業	0	その他一般	336,785	
加賀悦商店・宮崎	19,349	法人内事業所	36,350	
その他リサイクル	1,680	仕入れ販売	0	
刺繍製品	74,750	その他	62,160	
ダンボール製品	0			
Tシャツ他	32,180			
その他製品	140,399			
1,037,020(+63,092)		532,231(-73,991)		

2) 工賃

※年額には、年2回の賞与が含まれている。

	べにしだの家	れいんぼうワークス
令和5年度工賃支給総額	1,549,023	1,087,270
1人あたり支給月額 () 内前年比	1,878 (-50)	3,939(+68)
最高支給月額	7,200	5,380
〃 年額	90,600	60,390
最低支給月額 〃	156	1,890
〃 年額	2,844	27,140

(5) 各施設活動状況

べにしだの家

1) 主な年間行事・活動

月	内 容
4月	26日：利用者健康診
6月	17日：自立をすすめる会
8月	12～15日：夏季休暇 19日：合同きょうだい会
9月	11日：蒼の会学習会
10月	25日：利用者健康診断
11月	4日：べにフェス
12月	15日：母親懇親会 28日：御用納め 29～31日：年末休暇
1月	1～3日：年始休暇 4日：仕事始め 5日：家族参観① 11日：家族参観② 13日：LiVE YOU 20日：自立をすすめる会
2月	1日：家族参観③ 3日：べにしだきょうだい会
3月	12日：家族参観④ 21日：家族参観⑤

2) 健康管理

- * 血圧・体重測定（看護師）/随時 * 健康相談（村上医院）/毎月1回
- * インフルエンザ予防接種・コロナワクチン希望者接種（大菅病院）
- * 健康診断（名古屋公衆医学研究所）/入所年2回・通所年1回
- * 訪問歯科診療（えびす歯科）/毎週木曜日
- * PT 訪問（たわだりハビリクリニック・リハプロ訪問看護ステーション等）

3) 生活実習（プレホーム体験） ※R5年度は実施なし

4) 家族との連携

- a. 家族会 ※毎月開催。
- b. 家族懇談会 ※グループ別に5回開催。
- c. 自立をすすめる会 ※2回開催
- d. 母親懇親会 ※12月に開催
- e. きょうだい会 ※あさみどりグループ全体で1回（ハイブリッド）、べにしだ単独で1回開催。
- f. 特定非営利活動法人「蒼の会」との情報交換 ※身上監護、定例会議、学習会の参加。

5) 職員の活動

- a. 各種会議
 - ① 毎日始業前の朝会（夜間の申し送り、一日の予定確認、指示事項等）
 - ② 生活棟会議（南・北棟別に月1回開催）
 - ③ 作業室会議（月1回各作業室のケース、作業状況の情報交換、課題整理）
 - ④ ホーム担当者会議（各ホームの情報交換、課題整理）
 - ⑤ リーダー会議（毎月1回、各部署のリーダーで総体的な情報共有、課題検討、調整）
 - ⑥ 虐待防止委員会（年3回ヒヤリハット・事故・不適切対応報告書の整理と虐待防止意識の共有）
 - ⑦ ホームスタッフ会議及び本体スタッフ会議（毎月1回、決定事項の確認、伝達、情報交換、ケース検討等）
 - ⑧ 給食会議（毎月1回、委託業者との情報交換、課題検討、調整）
- b. 法人主催で行われる職員全体研修、経験年数別研修、ケースカンファレンスに参加
- c. 施設内研修（8、9月：有期契約職員研修 5月：新人世話人研修）
- d. 施設外研修 ※オンラインで開催されたものを選定して参加。

6) 地域との交流・学生等の実習受け入れ等

a. ボランティアの受け入れ状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
べにしだ	0	0	0	0	0	0	0	6	0	90	0	0	96
あらくさ	2	7	6	5	1	6	4	7	5	2	3	3	51

b. 実習・見学

(延べ人数)

種別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
特別支援学校等作業実習	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	16
小・中・高生体験学習	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	10
大学・専門学校社会人等実習	6	1	5	19	24	50	53	60	16	13	0	40	287
見学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	80
	合計												393

※体験実習校・施設…同朋大学、日本福祉大学、中部学院大学、名古屋女子短大、岡崎女子短大
東京福祉大学、東海医療科学専門学校、社会福祉士養成所等

※3月の見学者は下記「平成中村座コラボイベント」の来場者を計上（人数は概数）

c. 地域交流等

①Live YOU ※当初2回予定だったが1回のみ開催

参加者種別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
障害児・者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
利用者家族	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10
出演者スタッフ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	60
参加者計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	90

③同朋大学祭（11/11）

②平成中村座コラボイベント ～かぶけ！べにしだの家～（3/16）

・平成中村座の来場者に広報し「茶房遊」を休憩場所として開放した。お茶の提供、利用者の作品展示と販売を行い、80名ほどの方にお越しいただいた。

④アート作品の展示（随時）

※中村区民祭、中村区地域福祉講演会は不参加

7) ヒヤリハット・事故・虐待・不適切対応

《べにしだの家》

種別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
服薬関連	3	1	3	1	1	3	2	2	1	1	2	0	20
転倒・転落・衝突	0	2	0	1	0	2	0	1	1	0	2	1	10
自傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他害・物損	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
放置	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
無断外出・見逃し	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
異食・誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
浴室内の危険	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
身体拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他不適切対応	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	1	0	6
計	4	5	4	4	1	7	4	3	4	3	5	3	47

※服薬関連は例年同様突出して多い傾向にある。二重チェック、マニュアル等々の対策を取っているが、うっかりが多く、職員同士が声をかけ合う状況も希薄であるため、職員同士のコミュニケーションを高めるような根本的な取り組みの必要性を感じる。

《あらくさ作業室》

種別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
服薬関連	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
転倒・転落・衝突	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
自傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他害・物損	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4
放置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無断外出・見逃し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食・誤嚥	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
浴室内の危険	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身体拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他不適切対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
計	3	4	0	0	1	1	0	1	2	2	2	1	17

※ 前年度（2件）よりあらくさ作業室での報告が増えている要因としては、新規利用者の特性への把握が不十分であったり、正規職員が増えたことで報告の意識化ができていったことが考えられる。通院治療が必要なケガをするような事故はなかったが、オレンジアレルギーのある利用者にオレンジジュースを飲ませてしまう事故（一口飲んでから気づいて水分を多く取らせる対応がよかったのか、体調の変化はなく済んだ）など、改めて対策の周知徹底が必要と思えた出来事もあり、引き続き事故防止に取り組んでいきたい。

れいんぼうワークス

1) 主な年間行事・活動

月	内 容
5月	20日：田植えイベント
6月	3日：さつまいも苗植えイベント 17日：みんなのれいんぼう祭、れいんぼう虹連絡協議会、 山の家合宿(1泊2日)①②
7月	8日：発達障害対応研修① 山の家合宿③ 17. 21. 22日：ホーム見学会
8月	12～15日：夏季休暇
9月	30日：発達障害対応研修②
10月	18日：家族会・学習会 一泊旅行①② 21日：稲刈りイベント
11月	一泊旅行③ 4日さつまいも収穫イベント、きょうだい会 16日：家族会・学習会
12月	6. 8. 9日：ホーム見学会 16日：クリスマス会 28日：御用納め
1月	4日：仕事始め 20日：れいんぼう・虹連絡協議会 27日：発達障害対応研修③

2) 健康管理

- *健康チェック（看護師/毎日：体温・体重測定記録の確認及び健康相談） *健康診断（年1回）
- *予防接種（加賀医院/インフルエンザ希望者接種、新型コロナワクチン接種） *ブラッシング指導（愛西市）

3) 家族との連携

- a. 保護者会および研修：保護者会は毎月1日の開催予定。学習会を2回実施。ホーム個別懇談を11月～翌年2月で実施した。
- b. 個別相談：随時
- c. 自主活動：親の会を組織して活動するとともに、れいんぼう祭のバザー出品のために手作り品を製作して施設運営の援助をしていたが、今年度は中止。
- d. れいんぼう虹連絡協議会：主に父親同士が集まる活動を通じて、父親、職員相互の信頼と共感を深め、施設と協力して生涯の援助体制を確立していくために、障害者福祉の動向などについての学習と親睦の場として実施。（今年度は6月・1月に会食ありで実施）

4) 職員の活動

- a. 施設内においては、①毎日作業終了後の打合せ、②随時行うケース会議、③運営方針の確認・行

事計画・事業執行などを協議する職員会議（月1回）④個別支援計画・モニタリング作成のアセスメントおよび計画策定会議を実施した。

- b. 法人主催で行われる職員全体研修、階層別研修、ケースカンファレンスに参加した。
- c. 施設内研修として、横浜やまびこの里の小林信篤先生による、年間3回の事例検討研修を行った。ハイブリッド開催で地域の事業所へも参加を呼び掛けた。
- d. 知的障害者福祉協会・社会福祉協議会等が主催する研修会に参加した。東海地区施設長等研究協議会（10月：2名）サビ管基礎研修（2名）

5) 地域との交流・学生等の実習受け入れ等

今年度は高校生の介護体験実習が再開し、教員免許取得のための介護等体験実習も実施。また『musbun』経由で、学生ボランティアに施設に訪問する機会を設けたり、オンラインでの節分イベント等交流する機会を設けることができた。地域との交流については、さつまいもプロジェクトと称してさつまいもの苗植え体験を小学生が行い、高校生が教えるというイベントを津島市の地域コミュニティと共同で行うことができた。新たに米作りプロジェクトと称して中学生とさわらび園卒園児親子とが田植え、稲刈り体験を行った。

また、地域の企業や他事業所等と農福連携の会議を月1回おこなってきた。

a. ボランティアの受け入れ状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	1	24	76	0	2	0	18	3	4	0	26	3	157

b. 実習・見学等 ※実習校・・・海翔高校、名古屋学芸大学 (延べ人数)

種別 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
特別支援学校等作業実習	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小・中・高生体験学習	0	0	0	20	0	0	0	15	0	0	0	0	35
大学・専門学校等実習	0	0	0	0	0	0	0	25	5	0	0	0	30
見学者	5	0	0	3	0	1	0	10	15	0	1	2	37

c. イベントの開催

6) ヒヤリハット・事故・虐待・不適切対応

種別 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
服薬関連	1	1	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	6
他害・物損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無断外出・見逃し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転倒・転落・衝突	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他不適切対応	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
計	1	2	0	1	0	0	1	1	1	2	0	1	10

※ 生活場面で起こる様々なリスクの可能性も予測しつつ、引き続き積極的な報告提出を奨励している。

※ 不適切対応については職員のリフォロー体制を見直したり、改善に向けた支援の見直しを行った。